

奨励賞

## 病気の子どもを支えるために

横浜共立学園中学校 3年

のむら あかり  
野村 明里

私には、難病を抱えたいとこがあります。現在、彼女は快方に向かっており、自宅で療養していますが、赤ちゃんの頃から入院や手術を何度も経験しています。彼女の手術は難しく、自宅から離れた大きな病院でないと受けることができませんでした。私の家の方がいとこの家よりも病院に近かったため、いとこが地元の病院から転院した直後は、伯母は私の家から病院へ通っていました。毎日、朝早くに家を出て、面会時間ギリギリまで病院にいて、夜遅くに帰ってくるという生活はとても大変そうでした。そのような時に、伯母が見付けたのが、病院の近くにある、よこはまファミリーハウスという施設でした。よこはまファミリーハウスとは、横浜市内の医療機関で高度先進医療を受けるために入院する子どもとその家族が滞在できる施設で、運営者の方のご自宅の2階を利用することができます。家が病院から遠いと入院中の子どものもとへ親がすぐに駆け付けることができず、不安が増大してしまいます。しかし、このような施設のおかげで、患者さんの家族も少しは安心して治療に専念できるので、とても良い施設だと思います。病気の子どもたちのために積極的に支援をしてくださる方々に感謝したいです。それと同時に、他にもこのような施設はあるのか、私でも病気の子どもたちの役に立てるような身近な活動はないのかと、小児医療について興味を持つようになりました。そこで、私なりに小児医療について調べてみることにしました。

調べて分かったことは2つあります。まず、1つ目は、マクドナルドがドナルド・マクドナルド・ハウスを運営していることです。この施設も、病気の子どもとその家族が利用できる滞在施設です。1974年にアメリカのフィラデルフィアに世界初のハウスが誕生して以来、2017年末現在、42の国と地域に367ヵ所開設されていて、日本には12ヵ所あります。そして、これらの施設は、企業や個人からの寄付や募金、多くのボランティアによって運営されています。私は、世界中で病気の子どもとその家族を支援する活動が行わ

れていることを知り、嬉しく思いました。一方で、こういった活動がまだ発達していない地域も多いと感じたので、もっとこのような施設が増え、たくさんの子どもが安心して治療を受けられるような世の中になってほしいとも思いました。また、私は今まで、お店にある募金箱を見てもスルーしてしまっていたので、少しでも協力できるように募金をしたり、機会があればボランティア活動に参加したりしたいと思いました。

2つ目は、医療技術の進歩により助かる命が増え、大きな障害を抱えたまま成長する子どもの数が増えたにも関わらず、退院後の生活を支える社会の仕組みが充実していないことです。障害を抱えたまま成長する子どもの中には、日常的に医療機器やケアが必要な子が多くいます。しかし、実際は医療と児童福祉の連携が難しい、在宅医療に詳しい人材が少ないなどの問題があり、こうした子どもの生活を支える制度はあまり整っていないそうです。だから私は、早く問題点を解決して、障害を抱えながら生活する子どもとその家族が安心して生活できるような社会になるといいなと思いました。

私は、いとこの病気をきっかけとして、ほんの少しですが、小児医療について知ることができました。私には、病気で苦しむ子どもを治してあげるといった直接的なサポートはできません。だからこそ、社会には病気の子どもたちのために活動している人がいることや医療の現状を知り、自分の意識を変えることが大切だと感じました。そして、健康に生活できることに感謝しながら、自分にできる活動には積極的に参加していきたいと思います。